

両角友成 県議が3月1日、2月県議会（2/17～3/16）一般質問に立ちました。
質問と答弁の要旨を紹介します。



十分な設備で教育を受けることは子どもたちの権利

松本養護学校の過密化解消策として、盲学校内への「分教室」設置や、ろう学校、寿台養護学校に知的障がい児を受け入れることなどが、「中信地区再編整備計画」で検討されています。

両角 計画は、子どもたち個々の問題を考えることなく枠組みの整理のみで、教育委員会の説明会に出席した保護者から「納得のいかないまま話が進んでいくのでは」との不安の声も寄せられている。異なる障がい種の分教室設置は現場の混乱も予想される。拙速に結論を出さず他の公的施設の活用も含めて当事者とよく協議してほしい。

教育長 盲学校への分教室は4月開設に向け順調に進めている。ろう学校や寿台養護学校への配置については、児童・生徒・保護者にも見通しを示しながら具体化を図りたい。

両角 男女共用のトイレ、網戸のない窓サッシなど設備修繕・環境改善のために、今年度の3倍以上の予算が計上されたことは歓迎するが、根本的な課題解消のためには、学校の新設も含めた全県的な特別支援学校の整備計画をつくるべき。

阿部知事 教育委員会の考え方を十分聞きながら財政的措置を講じたい。

植林、製材、製品化、燃料・発電 地域で資源循環できる仕組みを

両角 国内林業の衰退は、木材の輸入自由化が決定的だった。

①輸入木材の依存から国産材・県産材の需要拡大を目指すべき。そのために、製材所から出る木くずなどや建材として利用されない広葉樹、一般市民からの枝の持ち込みなど、燃料として活用する、資源を循環させる「枯れない油田」的発想が必要ではないか。

②信州 F・POWER プロジェクトのような最初に大規模バイオマス発電ありきではなく、木材産業を盛んにし林業の裾野を広げ、その結果として残材、残渣、未利用材の枝葉まで利用可能となり発電の燃料に結びつける。これが正攻法ではないか。

林務部長 ①キーポイントは県産材の利用。これまで生産から利用まで様々な取り組みをしてきた。「再び植える」という観点から、低コスト造林技術の確立など関係団体と連携している。

阿部知事 ②木材の供給側だけでなく需要側の視点で、建築、エネルギーとしての活用なども検討していくことが重要。

質問を終えて…両角

特別支援学校に設置基準がないことがそもそもおかしい。通常学校が養護学校と同じ教育環境であれば親御さんたちは怒りだすはず。障がいがあるというだけで我慢させられていると取れる現状を変えなければいけません。